会報

No. 12

1987.3.25発行

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内

TEL(075) 771−0069

私の出会った本

―地中の蔵書―

塗師宗哲十二代　中村弘子

漆器の歴史は古い。そのごく一部であるけれど、私の家が塗師の仕事に携わってからすでに三百数十年になる。その塗物はお茶の用具が主でお茶の歴史ともつながり、漆と茶と家職の資料をたずねることも仕事の一つである。

あの塗物の艶の下にどれだけの作業がつみ重ねられているか。仕事場で手まねしながらぼんやり見ていた幼い日々。父は漆によごれた指先を折々休めては本の頁をくり、筆を持っていた。今年で米寿になる父十一代は小学校五年でその父九代が急逝し、母十代と共に大正年間、そして昨年まで家職を伝承してきた。学校の訓導でもあった父母の下に育ちながら、最も願望していた進学の道を断たれ、塗の仕事机の前に坐ることとなったが、止むに止まれぬ向学の思い、文学への憧れに独学の日々を送った。青年団では図書館から巡回の図書を借りて読み、街へ出ると書店へ入って書物をむさぼり読んだそうだ。当時は書物を手に入れることも容易でなく、出入りの古書店から出版して間もない漱石全集を買い受けたという。昭和の初めには日本俳書大系、日本文学大系、平凡社の百科辞典、大辞典が揃った。時代椀や蒔絵など漆器の図録、謡本、そして名家の蔵品入札目録の集積。その知識や情報はまさに干天の慈雨のごとく父の心にしみこんだであろう。今日、教育の機会に恵まれ、あふれるばかりの書籍、情報の洪水の中では考えられぬことではあるが。

私もまた幼い日、父と並んで本を読むことが好きであった。ゆずり受けた文芸春秋社の小学生全集の赤い背、青い背。歴史、理科、物語、詩など内容豊かに子供心をひきつけるものであった。そのうち大人の会話を理解し早くその中へ入りたい思いにかられ、書棚の本を一冊、二冊と読み始めた。そのころから戦争が激しくなり、京都も警報が度々出され息をひそめる時間は読書の時でもあった。やがて庭に大きな穴を堀り長持をしずめて、家の資料や父の愛蔵の書籍をおさめ空襲にそなえた。戦い終って地中より出した漱石全集の朱色の布表紙は少し土中のしみが付いてしまったが、色鮮やかに私には格好の愛読書となった。小説はもちろん日記や評論など興味深く読み続けた。一頁一頁、行きつ戻りつ、あれこれ思いをめぐらせて読むことが楽しく、今もその習性は変らない。

本格的に漆の仕事にかかわり出してから、一つ一つの作品の形や意匠の奥にどれだけ深い意味が含まれているかを知るようになった。初代からの型や文様、筆記録に熱心であった五代、八代の資料や文書類が代を重ねるごとに増してくる。家元の宗匠方、数寄者と共に利休居士のお茶に触れつつ道具を定め、時流の意匠を加えている。私どもにとって、茶の湯書から先人の振舞いや道具の美学を学ぶことは、技術や目ききの修練とともに大切な感覚の訓練である。手や目以外の感性は哲理や詩情によって磨かれるのではなかろうか。

現代は情報メディアの豊富さとスピードに探知のいとまなく、思索を前へ前へと走らせてしまう。漆に手を染めて三十余年にして十二代を継いだ今、私もまた先代と同じ姿でゆっくり本の頁を繰っている。

筆者紹介

千家十職塗師中村宗哲十二代、漆工芸家、彩漆器展を各地で開催、京都市立美術大学工芸科卒業

参考事務全国集会

八幡市民図書館　平田浩三

高度な情報管理能力を持つコンピュータは、使い方次第で図書館活動の大きな戦力になり、その活用法の研究は図書館にとって今後の大きな課題です。今回の研究集会では、コンピュータを利用したデータ管理の事例が数多く紹介されました。各館の目録データの交換や、その集中による総合目録の作成、レファレンス処理結果のコンピュータ管理、行政内部での情報の相互提供システム、大学図書館を含む複数館のオンラインによる相互検索、郷土情報のコンピュータ管理などです。これらの事例は、コンピュータの持つ大きな可能性の一端を物語っており、それは図書館に与える影響の大きさを示しています。

このような大きな能力を持つコンピュータではありますが、その能力を発揮させるためには、それを活用しうる人の存在が欠かせません。志智氏は、どんなに技術が発達してもそれを支えるのは職人芸であると言われ、朝日奈氏は、図書館職員の参考事務技術養成のためのプログラム例を示し、機械化システムとあわせて、従来のツールを使った方式も重要と言われました。共に人を重視した発言です。

一方、最近の情報化社会の進展に伴う情報機器の発達は目覚しく、図書館にも大量に進出し、図書館の機械化が進んでいます。このような状況は、図書館の機械への依存度を高め、図書館の関心を機械技術の習得やその利用に向けさせ、あたかも機械が図書館を支えているような錯覚を起させかねません。けれど、図書館を支えているのは人です。栗原氏は、コンピュータは補助であり、回答するための道具にすぎず、主体性は人にあると言われました。その主体となる人を養成することは、どの図書館でも実行可能なことであり、それは図書館を発展充実させる有力な手段です。こうした、人の重要性をわきまえた上で、機械技術の導入・活用を考えることが大切であると感じました。

（十二月四・五日　於　堀川会館）

京都での研究集会に参加して

奉仕部門研究集会（近公図）

京都市北図書館　川端清代

私は、近畿公共図書館奉仕部門研究集会に初めて参加させていただいて、近畿圏内の多くの図書館から多数の図書館員の方々が参加され、熱心に研修されている姿に驚きました。私自身、図書館の相互協力の必要性を感じながらも、日常の仕事の中でどう取り組んでいけばよいのか、という悩みがありました。しかし、この研究集会で、大阪府中河内地域の八尾・東大阪・柏原三市の図書館では、相互利用がなされているという報告がありとても参考になりました。

中河内三市の例は、利用する立場からは、大変便利になり、図書館がより身近なものになったことと思います。また、図書館にとっても、より多くの人々に、本と接触してもらえる場が増え、お互いの図書館のいろいろな情報も入手できるなど、利点も増えたのではないでしょうか。

最近、京都でも府の図書館等連絡協議会として、図書館資料の相互貸借が始められたり、又、京都市でも中央図書館と地域図書館の間で、図書の貸借やファクシミリの導入による資料の照会や電送など、少しずつですが協力体制が整いつつあり、大変良い方向に進んでいると思います。今後、いろいろ多くの問題があるでしょうが、お互いにできることから協力活動をしていくことが大切な課題ではないでしょうか。

研究集会の中で、国立国会図書館からの報告がありましたが、国立国会図書館では、ＰＲ誌の発行予定や、コンピュータによるオンライン検索システムを設けるなど、積極的に、公共図書館やその他の図書館への協力活動が進められていることを知りました。

このように、多くの方々が研究集会によって今まで知らなかった情報を得られたり、他の図書館の現状を聞くことのできる場が持たれただけでも、相互協力にとって意義があったのではないかと感じました。少しずつでも図書館の奉仕活動を発展させていくために、今後もこの研究集会がますます充実したものとなることを願っています。

（十一月二十五日　於　市社教センター）

にゅうす・ニュース・News

新しい府立図書館構想を
―府教育委員会が諮問―

京都府社会教育委員会議は、昨年八月、府教委より「生涯学習を展望する京都府の図書館のあり方」について諮問を受け、専門委員会を設けて検討をしてきました。

これまでは、二十一世紀を見通した、新しい府立図書館のあり方について協議してきましたが、三月末にはその中間報告が出される予定で、来年度には市町村図書館の振興について検討されることになっています。

なお、専門委員会には外部から、小倉親雄、小田泰正、澤田種治の三氏が専門委員として参画されています。

園児六十人が図書館へ
綾部市立図書館

開館以来初めて綾部市立図書館に、綾部幼稚園の園児六十名が訪れ、絵本や図鑑を開いて本の世界に遊んだ。

「小さいときから本に親しませる習慣を身につけさせたい」という四方小里園長の提案に園児たちは大よろこびでこの日が来るのを楽しみにしていた。四方園長らに引率された、さくら組とゆり組の園児たちは、われ先にと児童文学の書棚に手を伸ばし、思い思いの本を選んでは、行儀よくいすに腰かけてページをめくっていた。いつも静かな館内も、この時ばかりはにぎやかでした。

特別展示会開かれる
美しい本展　向日市立図書館
パプアニューギニア展　府立総合資料館

向日市立図書館では、だれもが幼い頃に親しんだ童話や物語など、めったに見られない貴重な初版本や原本を集めた「美しい本展」が、今年の一月十日から三十日まで開催されました。また、府立総合資料館では、原始社会の民俗資料を集めて、「パプア・ニューギニアセピック・アート展」が一月十日から九日間開かれました。展示された資料は約百四十点、ニューギニアのセピック川流域にすむ部族の社会で、今日でも使われているものばかりとのことです。

＊＊＊役員の変更＊＊＊

理事・新　寺井　硯龍
（京北町中央公民館長）
旧　大棚　浩
（美山町中央公民館長）
監事・新　西本　芳男
（加茂町立図書館長）
旧　新谷　博俊
（加茂町立図書館長）

CDの貸出し始まる
八幡市民図書館

八幡市民図書館では、昨年十二月九日より、関西の図書館では初めてCD（コンパクト・ディスク）の貸出しを始めました。

同図書館ではすでにレコードとカセットテープの貸出しを実施しており、利用者には大好評で、最近はCDの貸出しを望む声も多く、「音質もよく、取り扱いも簡単なCDの時代」と判断したものです。

当分はクラシックを中心に約百本、CDプレーヤー一台を置き、館内でも自由に聴けるとのことです。

他館の図書も借りられます
亀岡市立図書館

亀岡市立図書館では、京都をはじめ他府県の図書館と連絡をとって、同館に所蔵されていない図書は、一時他府県の図書館から借り出すという図書館間のチェーンサービス化を実施しています。借り出す場合は、市民が特種な学術書や専門書又は洋書など同館に所蔵のないもの、この場合は市民からその本の利用法や理由を聞いたうえで他館から借りうける。郵送料は双方の図書館で負担、利用者には本を破損しないこと、貸出し期間を厳守すること。この条件を確認のうえ、利用を呼びかけています。

南図協施設見学会に参加
宇治市中央図書館　森田　暉

一月二十六日、府南部図書館連絡協議会の施設見学会が行われました。

近鉄興戸駅より、同志社大学ラーネッド記念図書館に向かいました。ここは、一・二回生を対象とし、蔵書は五万冊、職員十名で運営されています。ちょうど試験の最中で、図書館の中は満席。明るく、ゆったりとしたスペース、とても開放的な雰囲気で、サロン的な感じがしました。

午後からは、昭和六十一年四月にオープンした加茂町立図書館を訪ねました。職員四名、コンピュータを導入して業務が行われています。開架室はブラウジングやじゅうたんコーナー等が使いやすく、コンパクトにまとめられ、とても暖かさを感じる図書館でした。

大学図書館と町立図書館の違いはあっても、図書館を利用する人達にとって使いやすく、居心地のよい図書館とは……。

色々と示唆を与えられることの多かった一日でした。

訃報

当協議会理事、大棚浩氏（美山町中央公民館長）は、かねてから病気療養中のところ、去る一月四日逝去されました。謹しんでご冥福をお祈りいたします。

専門委員会ニュース

相互協力委員会

「資料の相互貸借実施要領」が昨年５月の総会で決定され，京都府全域規模における相互貸借制度が出発してから半年以上が経過しました。現在この制度への参加館は協議会加盟館中34館に達しています。

当委員会では，昭和61年度中における相互貸借の状況を把握し，今後に役立てるため，「相互貸借実態調査」を実施することになりました。３月中旬に「調査票」を協議会加盟の各館にお届けして，４月15日までに回収し，集計および分析作業を行う予定です。各館のご協力をお願いいたします。

また，来年度の事業として「京都府内公共図書館等逐次刊行物所蔵目録」の改訂版を作成する予定です。昭和59年６月調査の旧版を改良し，所蔵巻号や保存年限等も一覧できるものにしたいと考えています。６月または７月に各館所蔵の逐次刊行物の再調査を行う予定ですのでよろしくお願いいたします。

逐次刊行物の保存については，各館ともスペースの問題もあり，分担保存等について考えるとき，まだまだ解決して行くべき問題は多いと思われます。この再調査の結果を冊子にまとめることにより，分担保存あるいは分担収集等の必要性についても共通の認識が深まり，問題解決の糸口になることを期待しております。

研修研究委員会

＜報　告＞

1. 研修活動

第38回実務研修会

テーマ：図書の受入基準 ── 公共図書館とマンガ

期　日：61年12月19日

場　所：福知山市中央公民館

参加者：29人

☆これについては後日まとめを発表する予定です。

2. 研究活動

今年度発足した３つの研究グループも，これまでに２回ずつ会合をもち，実質的活動にはいりました。

(1) 児童奉仕研究グループ（加盟13館）

児童書の選定基準を研究テーマに定め，具体的活動にはいっています。

(2) 障害者奉仕研究グループ（加盟５館）

府下公共図書館等における障害者奉仕の実態把握から活動をはじめています。

(3) 参考事務研究グループ（加盟６館）

参加各館のレファレンスの現状把握から，研究テーマをしぼりこむ努力をしています。

＜交流会開催＞

1. 京図協・京庫連実技交流会

日　時：２月24日　午前10時～午後３時

場　所：城陽南コミセン

☆人形劇，ＯＨＰ，ブックトーク等双方からだしあい，技術を深めるとともに，児童奉仕の一層の発展策を話しあう。

2. 京図協・日図協京都地区正会員との交流会

日　時：３月７日　午後１時30分～午後５時

場　所：京都大学　京大会館（211号室）

＊＊＊＊　館長の異動　＊＊＊＊

○加茂町立図書館	新	西本　芳男
	旧	新谷　博俊
○美山町中央公民館	新	山内　昌樹
	旧	大棚　　浩
○丹後町中央公民館	新	増田　彌一
	旧	田家　清一

全国図書館大会開催される
三月十九日・二十日 ── 東京

テーマ「ＩＦＬＡ東京大会報告と今後の日本図書館の方向」

ＩＦＬＡ東京大会は，「二十一世紀への図書館」をメインテーマに，昨年八月二十四日から二十九日まで開かれ，五十五か国から，一日登録者も含めると総数二千二百五十二名が参加しました。

わが国で初めて開催されたＩＦＬＡ東京大会は，多彩な行事と多様な論議をくりひろげ閉幕しましたが，今年度の全国図書館大会は，このＩＦＬＡ東京大会の成果を確認し，今後のわが国図書館の方向をさぐる大会として開催されました。（公共図書館のネットワーク化など十三分科会）

広報委員会だより

今号には，茶道千家十職の塗師，漆工芸家として，十二代を襲名された中村宗哲（弘子）先生に，大変お忙しい中，特にご無理をお願いしてご寄稿いただきました。委員一同深く感謝申しあげます。

広報委員会が新設されて満一年。この間，ホットな情報を府下全域から多数提供していただき，今回で三回目の発行ができましたことをお礼申しあげます。来年度も引き続きご協力をお願いします。